

好きこそ うどんの 3日9食



文&写真 岡田悠花 (文学部3年)



香川の讃岐うどん 初めての一杯

うどんが好きという理由で、「うどん県」を標榜する香川県に今春、2泊3日してきました。

店によって提供するスタイルは様々です。お客さんが自分で麺を湯通ししたり、用意されたつゆを入れ、薬味を添えたりするセルフ式は、東京ではなかなか見られないものでした。

お客さんは地域で暮らす人たちが多く、日常食のうどんを楽しんでいます。独特の雰囲気です。郷に入っては郷に従えーといひます。私は順番を待つ列の前の人と同じメニューを注文。見様見まねでやっと待望のうどんにありつけました。

2泊3日の9食は、すべて、うどん。味のおいしさはもちろん、人々の生活が垣間見えて思い出に残る食事となりました。

この体験により、食べ物を目的に観光する楽しさを知り、次に思った

のは、外国や他の場所はどうだろうか。

文学部の「学外活動応援奨学金」を苦難の末に獲得。台湾・台北、韓国・ソウル、福島・喜多方へ「庶民グルメによる観光まちづくり」の調査に行く機会を得ました。

喜多方市は、香川のうどんと麺類・地

域グルメという点から共通項が多いと感じていました。台北とソウルは、既にグルメの旅行先として人気の都市です。

台北は屋台形式の店や夜市も多いため、観光客も一人で食事しやすいのが特徴。外食文化が根付いているため、朝・昼・晩、どの時間帯も飲食店に活気がありました。

ソウルは視覚に訴える斬新でおしゃれな食べ物が人気である一方、地元の人が昔ながらの食事を楽し

む伝統市場も注目されています。

喜多方ではラーメン店がラーメン店のイメージを超え、地元の人たちが愛する食堂として位置付けられていました。居合わせたお客さんが、みんなでテレビを見ながら座敷で麺をすする風景が珍しくありません。

どこの旅先でも、食べ物に注目すると「人々の暮らし」が見えてきます。食&旅行という自分の好きなことの装いを変えて興味や関心とし、実際に足をのびして、庶民グルメによるまちづくりを体感しました。

1人だからこそ、各所で自由に食べ、自由に行動することができたように思います。次はどこへ、何を食へに行こうか。今からとても楽しみです。



ソウル、伝統市場の広蔵市場



活気がある台北のお店



□文学部の奨学金制度

「学長賞・学部長賞奨学金」などの6項目があり、「学外活動応援奨学金」もその一つ。この対象者は学外での活動(フィールドワーク、調査、語学研修、

ボランティアなど)に従事する者。選考は1次が学業成績による書類選考、2次に面接。募集人員は約30人、給付額は10~30万。